

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

M・O・H通信

M・O・H Journal

- to communicate and convey the message of Shiga's traditional principles of M・O・H -

特集:「経済」しあわせとは?

46号
2015
Winter

いろいろな紙はって、はって、色を塗りかさね、またはって。
色や素材が、いく層にも重なり合って
そこから、あらたな景色が生まれます。



[bird]



「園庭」

● 上田 三佳 (うへだ みか)

1972年京都生まれ、滋賀県彦根市在住。関西女子美術短期大学デザイン学科インテリアデザイン専攻を卒業後、環境コンサルタント事務所にて3年間造園設計に携わる。その後、教授秘書や造園事務所に携わりながら、絵画教室で油彩を学ぶ。現在は古民家の自宅アトリエにて制作、造形教室を行う。表紙絵・イラスト・ワークショップ多数。2013年春、彦根で「銀ぶら426」始動。商店街にある古ビル3階にてアート活動を仲間と行う。

<http://www.uedamika.net>



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためM・O・H通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | |
|---|---|---------------------|----------------------------|
| M | → | 循環
もったいない | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | 共生
おかげさま | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | 抑制
ほどほどに | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |



contents

目次

特集:「経済」しあわせとは?

M・O・H巻頭言

「M・O・H」のここで生きる幸せのみち 森 建司 …… 4

M・O・Hな学校 草津市立渋川小学校

紙芝居で描く地域環境の過去、現在、未来 今関 信子 …… 5

① M・O・H対談 (サラヤ株式会社)

持続可能なソーシャルビジネスで「第三の道」を切り拓く

更家 悠介 & 森 建司 …… 11

② M・O・Hレポート (株式会社銀の森コーポレーション)

おいしんで幸せづくり 渡邊 大作 …… 18

③ M・O・Hレポート (株式会社清原)

伝統産業をおしゃれに彩る 清原 みどり …… 25

④ M・O・Hレポート (Cafeネンリン)

手作りのカフェで人が集う場所作り 岡西 りま …… 31

M・O・H活動—1

第4回 よばれやんせ湖北2014 …… 37

M・O・H活動—2

M・O・H塾スタート 村上 瞳 …… 41

なでしこファーマーズ

～食hana咲かそう!～食について話す交流会2014 …… 43

美の滋賀語り部マイ★スター

美の滋賀語り部マイスター講座2014 …… 49

里のお話

初冬の里 三山 元暎 …… 55

環人ウオーク

ローザンベリー多和田視察 …… 56

本の紹介 …… 60

インターナショナルメッセージ 一独逸

続 ドイツの誇りと国民性 原 修子 …… 61

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 63

講演日記 …… 65

第8回♪M・O・Hせんりゅうコンテスト2014♪

ベスト3決定 …… 66

M・O・Hニュース …… 67

4コマ漫画

にこやか …… 68

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙
「湖北の朝」
長浜の町(高月あたり)から伊吹山を見たようなアングルで作成しました。

●つるのげんとく!!滋賀県立立大卒業後、九州で地域コンサルタントの経験を経て、現在、長浜市大通時前の町屋を改装した「あかみき」を運営。仕事の日用品を取り扱う。

宇留野 純



「経済」 しあわせとは？

改修された茅葺古民家（風と土の交響in琵琶湖高島にて）



自分が今、生きていられるということは、世の中の様々な「おかげ」をいただいているからである。

その「おかげ」を感じとり、その恩返しをするつもりで、何か役に立つことをしたいと思つて暮らす。少しは周りに貢献をした
いと考え、努力することは当たり前のことなのだ。ただ日常生活でいく中で何を対象に、「おかげ」を意識しその恩返しを考へるかは、人によって正に千差万別である。

自分を生み育ててくれた親、そして先祖から親を通して受け継がれてきたモノや心を、子孫に伝えることは大切な自分の成すべき「恩返し」だ。親を

介護し最後を看取り、葬儀や法要を行うことも「おかげ」をいただいたことへのささやかな恩返しかもしれない。最近ではその様な恩返しを「なせしななければならぬのか」「それをすれば、どんな利益があるのか」などの論

M・O・Hの心で生きる 幸せのみち

合理的な裏付けがないということからか、認めない人たちも増えてきているようだ。

人が求める究極の幸福とは、経済的に豊かになることなのだろうか。そのためには無駄を徹底的に排除し、合理

主義に徹して競争に勝つことを第一義とする人たちが増えつつある。

人の「幸せ」は、この競争社会の思考からは生まれにくい。一時的に、断片的に幸福にあやかるとあるだろうが、それは「幸福」の「福」を得たのであり、決して

「幸せ」を得たのではない。いわんや相手を倒し、自分が勝ち残ることを理想とし、そのみを目標にして努力することは、極端な二極化社会を生み出す。

持続可能社会とは、そのような経済合理主義社会を改めることであり、「もつたない、おかげさま、ほどほどに」は、持続可能社会のキーワードとなるべきものである。

森 建司



M・O・H
な学校

草津編

「手づくり紙芝居コンクール」で審査員特別賞、「生物多様性アクション大賞」で優秀賞を受賞。
全国的な賞をダブル受賞です。学校全体での取り組みが評価されました

〈寄稿〉

紙芝居で描く 地域環境の 過去、現在、未来

—草津市立渋川小学校

いまぜき のぶこ
今関 信子

児童文学作家

全校児童539名で、全99作完成



今関先生から、お電話をいただいた。「おもしろい取り組みを草津の小学校がしてるのよ」。先生たちが、すごくいい感じなのよお。」うきうきとした声に、新たな発見の兆しが…。

子どもたちが紙芝居をつくる

2014年夏、私は、学校現場の面白さを、経験させてもらった。

話は、一本の電話から始まる。草津市立渋川小学校の先生からだった。「子どもたちに紙芝居を作らせたいのですか…。」

話によると、地域環境への取り組みが、三年目に入るといふ。自分の暮らす地域をよりよく知るために、そして、



よりよい環境にするために、2012年、2013年の二年間は、各学年が手分けして、地域の環境を調べ、聞き取り調査もして、畳一枚ほどの絵を四枚描き、それを屏風にした。

二双からなる屏風には、学校を中心にした風景が描かれ、そこに地域で見つけた草や生き物、顕微鏡で見た微生物、子どもたちが発見したモノと共に、全校児童が一人残らず登場する。

全員で総合芸術にチャレンジ

2014年は、子どもたちが発見したモノを、生かしたい。動く形を考えていたら、紙芝居があった。

畳4枚分からなる生き物絵図





①2年生 校長先生も子どもたちと話に聞き入っています ②3年生 担任が、紙芝居の「ぬぎ」のおもしろさを説明
③4年生 先生のほめ言葉に思わずにっこり

と、言うことで、児童全員で紙芝居を作ることになった。

紙芝居は、長い歴史を持つ日本独特の文化財だが、そのメディアの力により、1990年代以降、KAMISHIBAIは、アジア各地に伝えられ、とりわけベトナムやラオスに普及している。この文化財が、子どもたちの取り組みの中で、どのように力を発揮するのか、私は、大変興味を持った。

紙芝居は、小さいけれど舞台だから、総合芸術だ。子どもたちは、学んでいるものすべてを絡ませて、紙芝居を製作し演じることになる。

心に響いたモノを
多くの人に伝える…

先生達は紙芝居作りの経験がなかった。それで、勉強会が始まった。先生達は熱心だった。紙芝居の特長は？ どのような手順で製作するか。紙芝居の脚本は？ 絵の特長は？ ストーリー展開を面白くするコツは？ 見ている人を感動させる演じ方は？ 私は既製の紙芝居を





5



4



7



6

④ 6年生 名演技に拍手喝采 ⑤ 6年生 チームワークよく笑顔で発表 ⑥ 4年生 役になりきって演じています ⑦ 4年生 真剣に聞き入っています

演じながら、具体的に説明した。

ここからは、先生達と子ども達が、紙芝居作りという学習を通して、格闘することになる。子どもたちは、何に感動しよう表現してくるのか。見たことを見たままでなく、自分の内を通して、心に響いたモノを、多くの人に伝えようとするはずだ。これこそ総合学習ではないか。私は少なからずドキドキしていた。

おひろめの時がきた

しばらくして、「地域の人たちに見ていただく日が来ます。」と連絡が入った。

その日、私は学校に行った。地域の方々が、観客の子どもたちに混じって座っている。

六年生の紙芝居には、おたまじゃくしが一面に泳ぐ場面が描かれていた。

「おまえ、なんだかへんだよ。」「足がないじゃないか。」「一匹のおたまじゃくしがいじめられる。」「おまえ、足が出ないで、ひげがでたの? おかしいよ。」「



「そつだよ、へんだよ。」ひげのはえた
 おたまじゃくしは、みんなにからかわ
 れて、泣きそつになった。やがてみん
 なは前足も出て、跳べるそつになった。
 「あつちへ遊びに行つて。」行つて行

紙芝居の感想をうれしそうに聞く子どもたち

こつ。「みんなは跳んで行ってしま
 う。ひげの延びたおたまじゃくしは、
 ひどいぼつちになってしまった。その
 とき、「ああ、ぼつや。やつと見つけ
 ましたよ。」おまえはナマズだよ。
 ほら、みんながいるだつて。」ナマズ
 の家族がみんなを迎えに来た。ナマ
 ズにはお父さんにもお母さんにも、
 おじいさんにもおばあさんにも、お兄
 さんにもお姉さんにも、ひげがある。
 ナマズはみんなに囲まれて、嬉しそ
 う。良かった良かった。お終い。演
 じ終えて、グループ全員が歌い出し
 た。♪おたまじゃくしは、カエルの
 子、ナマズの孫ではないわいな。そー
 れが何より証拠には、やがて手が
 出る足が出る♪ すると、地域のお
 年寄りも声を合わせて歌い出した。
 「この話は○△さんから聞いた話を
 元に作りました。話をしてくださつ
 てありがとございしました。」製作に
 あたったグループ全員が頭を下げた。
 お年寄りたちが嬉しそつに拍手してい
 る。絵はつまらない。色だつて黒ばかり
 だ。それでも、「良く出来た」「いい紙

芝居だ」と満足げに拍手する地域の人
 たちの笑顔を見ながら、私は成果があ
 ったと思つた。ここには、心の通い合い
 があるのではないか。人と人が良い形で結
 びつくことは、「環境」を考へるとき大
 切なポイントだ。緑が多いことだけが
 よい環境ではないのだ。

九十九の願いと心

この紙芝居の面白さは、単に昔の伝承
 を聞き取つて、それを正確に描き出さ
 なかつた点にある。聞かせてもらった
 話を、自分たちの日常に引きつけ、「居
 場所」「家族」「仲間」などに思いを広
 げ、自分はナマズだ、愛されているん
 だと描いて、自分たちの願いや幸せを
 求める心を表現している。みごとに創
 作しているのではないか。

昔は大きなウナギが捕れた、と言う
 話を紙芝居にしたグループ。民家の軒
 先にツバメの巣を見つけた子どもたち
 は、ツバメを調べ、その旅を想像し、困
 難を乗り越えてヒナを育てるツバメた
 ちに感動し、大切にしたいと願う紙芝居



を作った。人間が汚してきたなくなつた川には住みにくいと、自分たちで川の清掃をやり始め、ゴミを自分の家を持ち帰る運動を始めた川の生き物たちを描いたグループには、ユーモラスではあつたが、人間に対する痛烈な批判が込められていた。タンポポの綿毛の旅を描いたグループ。昔は水車の油をなめに来たタヌキがいた、という話は、心に響いたらしく二つのグループが製作した。

子どもたちは、地域の方々の話をヒントに、昔の暮らしを描き、今の生活をありさまを批判し、これからにも考えを及ぼせて、個性的な話を九十九巻作り上げた。

教育？いえー！ 町作り

私は、渋川小学校の取り組みは、新



よくできました。心からの拍手、今関先生うれしそう

しい環境教育のあり方を実践実践したのではないかと思つた。子どもたちは、地域の方々と心を交わす時間を共有している。ここに新しい町作りの可能性があるのではないか。地域の昔が、今に伝わり、地域のこれからを共に考える場が、こんな形で現れたのだ。地域の支援はややもすると、昔の文化の押しつけ的な側面を持つ。が、この度の実践を見ると、子どもたちの自由な発想が、一番大切にされている。が、地域の人々の支援がなかったら、この学習はあり得な

かつたのだ。私はそこに先生達の深いねらいを見た気がしている。

※文中の「おたまじゃくしはかえるの」この歌は、永田哲夫作詞・アメリカ民謡

共に生きていき
今関信子

●いまぜき の心こ 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねすみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」「寺子屋」『VDR』2000 PH.D 研究所など多数。

●草津市立渋川小学校 2003年開校。しが環境教育リーディング事業（人と自然部会）指定校。文部科学省ICT活用実証事業指定校。全校児童数500名。

●対談



さらや ゆうすけ
更家 悠介

サラヤ株式会社
代表取締役社長



森 建司

循環型社会システム研究所
代表

〈経済『しあわせとは?』〉

持続可能な ソーシャルビジネスで 「第三の道」を切り拓く

石油系合成洗剤による水質汚染が社会問題になった1970年代、業界に先駆けていち早く植物系の「ヤシノミ洗剤」を発売したサラヤ。現在では「手洗い」をキーワードに世界を舞台に事業展開しています。

ボルネオやウガンダでの社会貢献活動のお話をうかがい、持続可能なソーシャルビジネスについて考えました。

■サラヤ株式会社 本社（大阪府大阪市）

■2014年9月22日



ロングセラーのヤシノミ洗剤



価格競争より品質の向上と 新しい価値の創出を

森 現代社会は、工業製品をいかに安く売るかにしのぎを削る競争社会になつていきます。これに対して、御社は共に生かす「共生」の思想をもって世界で事業を展開され、また自然との共生も大きなテーマとして掲げていらつしゃいます。御社の事業に「工業社会の次に来る新しい社会」の一つのあり方を感じました。さらに、綱領^{（きりりょう）}で「開拓の場は永遠にある。我々が授かった力の限りをもつて之を開発し、世の為に働こう」と。そういう視点で経済をみておられることに感動しました。

更家 競争社会で売上利益をあげなくてはいけませんから、ゆとりのある範囲内で、できることから始めようと考えています。

森 未来のためにいまの産業をどうかしないとといけない。そのために「もったいない、おかげさま、ほどほどに」の思想を10年前から『M・O・H通信』で訴えてきました。ところが、私の会社は

包装材料を販売しているので、環境のことを考えるとどうも矛盾があつて…。御社の事業をみて、こういう道があるんだと目からウロコが落ちたように感じました。

更家 人間が生きている以上、消費は必ずあります。要は資源を全部食い尽くしてしまわないように、リサイクルやエネルギーの省力化を含めて持続可能なビジネスを考えること。飯の食える範囲で次の世代まで回していきましようということですね。

森 CSRについて「持続可能なビジネスを目指します！」と書かれていますね。そして続きには「もったいないの精神で」と（笑）。

更家 『M・O・H通信』のキャッチフレーズですよ（笑）。そういう考えの会社が現れてくると、みんなが手をつなぎあつて共生していきける。そのことをお客様にも理解していただきたいと願っています。

森 持続可能社会における経済活動について考えると、実際にどんな事業がいいのか、なかなか答えが出せずにい

ます。そんな中で、御社の事業をみて「なるほど！」と思いました。

更家 大手と価格競争しても、人件費を削つての価格のたたき合いしかない。それならば大手並みの品質の商品を作つて固定客を獲得しようと考えました。できるだけ植物原料を使つたり、包装資材を省力化することで、新しい価値が生まれる場合もあるんですよ。

ボルネオの森の保全活動

森 御社のボルネオでの熱帯雨林保全活動も「新しい価値」につながつていそうですね。ボルネオでの活動はどういう経緯で始められたのですか。

更家 洗剤の原料にパーム油があります。そのパーム油の生産のため、プランテーションが拡大し、熱帯雨林が減少している。そんなパーム油を使つていてはだめだとお叱りを受けたくんです。それで初めて現地の実態を知つて…。ボルネオの自然を保全するためのトラストを設立しました。しかし、トラストにはお金がない。そこで「ヤシノミ洗



「『手洗い』の大切さを浸透させたい」 更家氏

森 洗剤だけでなくサニテーション（衛生）やメデイカル（医療）といった分野の事業もされていますよね。単に薬剤を売るだけでなく、その周辺環境について研究し、衛生の指導もされて、総合的にきちんと責任をもってやっておられる。こちらにも、まさに持続可能なビジネスモデルですね。

剤」の売り上げの1%を寄付するのことにしました。その1%は誰からもらっているかと考えると、結局お客さんのお金なんですよ。

トラストを設立して真面目に10年活動が続けてきて、環境への取り組みについてお客様に信頼していただけるようになりまして。お客様にボルネオの保全活動をしていることをご理解いた

ソフトで信頼を得る

だいたいで、きちんとした付加価値がつけられ、それでボルネオにもお返しができる仕組みができました。お客様に伝える努力によってうまくいったケースです。これが持続可能性の一つだと思います。

サラヤが設立に携わった「ボルネオ保全トラスト」

オランウータンやボルネオゾウの保護活動に取り組む



〈しあわせとは？－①〉

更家 もともと「手洗い」から始まった会社なんです。食中毒を防ぐための食品衛生についての気運が全国に広がる中で、昭和27年に父が「サラヤ」を創業しました。食品衛生のために手洗いの調理環境をきれいにするための衛生管理の商品を開発しました。

森 食品衛生に注目が集まっています、



「もったいない おかげさま ほどほどに」を広めたい」森氏

最初からどどん売れたんですね？

更家 いいえ。昭和

40年代・50年代に次々にスーパードキで食品衛生の分野は伸びたんですけれど、商品だけ持っていても営業は当初あまりうまくいきませんでした。スーパードキの従業員が非常に多くてすぐに辞めてしまったりするので「手を洗って、まな板・包丁をきれいにしましょう」と言ってもなかなか徹底できないんですよ。そこで、商品にプラスして教育が重要だと気づきました。

例えば衛生についての教育の一環として衛生検査をやって、それを見せながら教育するなど、誰にでもわかりやすい教育をする。あるいはマニュアルを作って、マニュアルを浸透させる。商品

今ではどこでも見かける「緑の石鹼液と専用容器」はサラヤ創業時の商品

社長自ら活動地に赴き、現地と交流を深める



開発だけでなく、そういうソフト面にも力を入れました。

森 商品に教育までセットにした事業展開は珍しいですよね。

更家 他にはあまりありませんね。

森 医療の分野はどういう流れで始まったんですか？

更家 医療でも実は手を洗うんです。

森 ああ、なるほど。

更家 昔は病院で医師や看護師が手を消毒するために殺菌液の中に浸してました。院内感染が相次いだ頃、医師たちが手を浸している殺菌液を調べてみたら、その中に菌がかなりいることがわかったんですよ。それで1979年（昭和54年）にアルコールで手指を消毒する方法を考案しました。医療においても手洗いのタイミンや手の洗いう方、洗浄や菌などについて情報提供のサービスをしています。

情報提供のコストをかけていますから価格は下げられません。その分、ウィルスの研究をして商品を改良し、いまはノロウィルスやインフルエンザにきちんと効く処方になっています。

ずっと続けてきてだんだん信用を得られるようになり、付加価値で買っただけのようにになりました。

森 「商品＋ソフト」が鍵なんですね。

手洗いでソーシャルビジネス

森 滋賀県には「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」という近江商人の伝統があるんですよ。御社は海外でもすばらしい社会貢献活動がされていて、これこそが「世間よし」だと思います。ウガンダでの活動について詳しくお話いただけますか。

更家 2010年に会社の60周年記念事業として何かしたいとユニセフに相談して、乳幼児死亡率が非常に高いウガンダで「100万人の手洗いプロジェクト」をユニセフとともに始めました。しかし、寄付ばかりしていてもエンドレスですよ。それに会社の経営が悪くなる場合もあるかもしれないし、それでは持続可能でない。そこで、アルコールの手指消毒を普及してできる持続可能なビジネスをやろうと、プロ



幅広いCSRの活躍が世界で広がる

ジェクトの2年目にウガンダで現地法人を立ちあげました。

森 ソーシャルビジネスですね。すばらしい！どんな風に手指消毒運動をビジネスに結びつけられたのですか？

更家 ウガンダに製糖会社カキラシューガーという大企業があつて、そこはサトウキビの絞り滓を燃やして発電事業をやったり、製糖過程ででる廃糖蜜（かす）を使ってバイオエタノールを作るプロジェクトをしている環境意識の高い会社なんです。そのバイオエタノールを原料にもう一段純度を上げたアルコール手指消毒剤を製造販売したいとカキラ





手指消毒運動が広がるウガンダ。子どもたちから手洗い

シユガーを口説き落
 として出資していた
 だきました。今年3
 月から従業員10人ほ
 どで小規模な製造を
 始めました。

それと並行して、J
 ICA(国際協力機構)
 のプロジェクトとし
 て、現地で製造した
 商品を使ってウガンダ
 の病院でアルコール
 手指消毒を徹底する
 試験をやりました。
 ウガンダは病院でも
 雨水を集めた水に強
 い塩素を入れて消毒
 しているような状況
 なんです。そこで手
 指のアルコール消毒を
 徹底してもらったとこ
 ろ、産褥熱も新生児
 の下痢も激減しまし
 た。その結果を踏まえ
 て、村々にあるマタニ

ティセンターなどにも普及事業を広げ
 ようと考えています。

こうした現地製造のアルコールを使
 う地産地消ビジネスは、アフリカの他
 の国でもできると思います。これとは
 別に「マザー・グリーン」という石けんの
 ブランドを立ちあげて、現地で製造販
 売する計画も進めています。

森 いままでの資本主義経済とはまっ
 たく違う発想ですね。

「共感バリュー」

森 『M・O・H通信』を通して、滋賀県
 で地産地消をしなくてはいけないと訴
 えているのですが、これからは世界で
 地産地消することも考えないといけな
 いかもありませんね。

更家 でも、それがビジネスとして回
 らないと誰もやりませんよ。そうい
 う「第三の道」を求めていかなんとい
 けないと思います。

先ほどあげたウガンダのミニ製造の
 同じ設備で、きれいに釜を洗わないと
 いけないけれど、アルコールと水と絞

の忌避剤を混ぜた蚊除け剤なども作れるんですよ。それで施設がどんどん回転すると売り上げも上がる。地産地消の発想で設備を回しながら何かできないかがこれからの課題です。

森 最後に、地域にも人にもやさしく、そして経済的にもうまく回すために、これからどういうところにポイントを置けばいいとお考えですか。

更家 ヤシノミ洗剤のように、原料がとれる場所から加工してお客様のところまでつないでいくのがわれわれの仕事です。そこで、安全安心を切り口にして、真面目に活動していることを情報としてお客さまにきちんとお伝えする。そしてお客様のご意見をうかがいながら「共感バリュー」をつくっていく。そういうことがビジネスとしては非常に大事だと思います。

森 なるほど、共感することから新たな価値が生まれるわけですね！

更家 そうです、生産者にもお客様にも共感してもらうことが大事ですね。森 今日では更家社長が実践されてきた持続可能なビジネスについてたいへん興味深いお話をうかがうことができました。ありがとうございます。



エコデザインネットワークで一緒にしました。十数年ぶりの再会

五知 皆元気が
更家 頑張りな
更家 健介

●さらや ゆづすけ 1951年生まれ。サラヤ(株)代表取締役社長。大阪大学工学部卒業。カリフォルニア大学バークレー校工学部衛生工学科修士課程終了。サラヤでは工場長、専務を経て1998年より現職。ボルネオ保全トラスト理事の他、NPOゼリ・ジャパン理事長、NPOエコデザインネットワーク副理事長などを兼務。

勇気 凛々
いの壁を打ち破れ
森 建司

●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。著書『「吃音」はなある』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版、『中小企業相談センター事件簿』サンライズ出版。





わたなべ だいさく

渡邊大作

株式会社 銀の森コーポレーション
代表取締役社長

②M・O・Hレポート「経済」しあわせとは「く おいしいで幸せづくり 〜ゆっくり、のんびり、楽しく〜」

業務用冷凍食品と冷凍おせちの製造販売で
トップシェアを誇る、株式会社 銀の森コーポ
レーションは、2011年、本社に併設してレス
トラン、ショップ、食品製造工場などを有す
るアミューズメント施設「恵那 銀の森」を
オープンしました。

家族経営の豆腐屋からスタートし、変化を
繰り返して成長を遂げている「恵那 銀の森」
で、“食”にこめた思いをうかがいました。

- 恵那 銀の森（岐阜県恵那市）
- 2014年10月1日



「食べる、話す、歩く、座る、くつろぐ、学ぶ、触れ
る、つくる、つながる、感じる、生きる」



①「今日をていねいに充分楽しみなさいな」と恵那山は笑う ②銀の森イラストが可愛い ③銀の森からこんにちは
④なつかしい未来へようこそ

おいしい、たのしい

「恵那銀の森（以下、銀の森）」は岐阜県恵那市、恵那山ふもとの大自然の中にある。「またひとつ、おいしいが生まれる」をコンセプトに、8つのショップやレストランを展開。スイーツの「カリテレモン」、恵那銘菓・栗和菓子「みくりや」、出汁やご飯のお供の「おくど」、おせち料理の「こせちえ」、総合ショップの「銀の森SHOP」などの施設が独立して立ち並ぶ。イタリアンメニューが豊富な「森の食卓レストラン」には平日でも長蛇の列ができる人気ぶりだ。おいしさと楽しさが詰まった自然公園のテーマパークとなっている。

誕生・銀の森

運営するのは銀の森コーポレーション。1970年、前身であった豆腐屋を「銀しゃり本舗」と改め、長年この名前で親しまれてきた。今の名前になったのは2013年のことだ。

創業以来、業務用の寿司製造・惣菜



製造の事業を展開。優れた冷凍技術を活かし、業務用冷凍食品や冷凍のおせちなどの商品を開発、事業を拡大していった。

「これまで、メーカーとして受注型の商品作りをしてきましたが、もっと一般のお客さんの生活に近いものを自分たちでブランディングしたいと思い、銀の森ができました。何が売れるかなんてわからない。まずはやってみよう!という精神です」と語るのは、銀の森コーポレーションの代表取締役社長、渡邊大作さん。創業者である祖父や父から会社を受け継ぎ、さらなる飛躍を目指している。渡邊さんの口癖は「まずやってみよう!」だ。

やってみなくちゃわからない!

小売業も担うようになり、新たな商品としてヒットしたのが冷凍ピザや電出汁、スイーツだ。

中でも人気急上昇中の商品が、家庭で簡単に調理できる冷凍本格ピザ。オーブントースターで焼くだけという手軽

さと、外はカリッと、中はもちっとした水分の多い生地の開発を手がけた。種類も豊富で、マルゲリータや4種の贅沢チーズなど20種、またこれまでのおせち製造の流通ノウハウを活かし、低価格での提供にこだわった。

「和食に合う、日本のピザを作りたいんです。蕎麦がラーメンになり、『らーめん』とひらがなで書いても伝わるように、僕たちのピザも『びざ』と書いて分かってもらえるようになりたい。まだ始めて3年だけど、1日1万枚売ってもらうので頑張りたい」と、意気込む。

解凍することで調理する

そもそも食品を凍らせる理由は、菌の繁殖を防ぎ、品質低下を防ぐため。しかし、水分が多いものは冷凍に向かなかったり、解凍することで細胞が壊れるため、食感が失われて柔らかくなったりと、冷凍商品作りには知識と技術が欠かせない。

「完成した食品を冷凍し、解凍すると、組織が壊れて品質が変わります。だっ

たら、解凍による組織破壊を利用して、組織が壊れたところで調理が完成すればいいんじゃないかと考えました。冷凍にしちゃおいしいね」というレベルではだめです。我が社の強みである、調理と食品化学の技術は、まだまだ可能性を秘めています」と、冷凍食品の最先端を走る。

消費者心理 売りたいものと 買いたいものの違い

「お菓子がねえ、なかなか売れないんですよ」と苦い笑みをこぼした渡邊さん。直接販売することで渡邊さんが感じたことは、お客さんは自分たちが売りたいものを買いたいわけではないということだ。

「イオンなどの量販店でもお菓子を販売していますが、セット売りよりバラ売りの方が人気なんです。主婦の方に話を聞くと、贈り物は、お菓子よりピザや出汁の方が嬉しいという声もある。僕は、お菓子は売れる!と思ったけれど



1



3



2



5

21



4





7



6

①「食べるしあわせを作るニッポンってステキだと思う」おくど
 ②「おいしいからたのしいへ」森の食卓レストラン ③「素材本流りんごが美味しいアップルパイをめざして」園内のヒメリンゴ
 ④「またひとつおいしいが生まれる」銀の森コーポレーション
 ⑤「節会の文化を未来へ」五節會 ⑥「ママの手づくりスイーツ」カリテレモン ⑦「栗山からの四季だより」美栗舎 ⑧「お台所の音はあたたかく美味しい。出汁を極めた」寤出汁(おくどだし)
 ⑨「新鮮な野菜たち」⑩「新鮮な果物の恵みをいただく」フレッシュジュース ⑪「おいしい『旬』と、たのしい『笑』を食卓に」銀の森ショップ ⑫「森の食卓のランチバイキングは絶品揃い」



10



9



8



12



11

お客さんが欲しいものは違ったんですよね。お客さんが何を求めているのか、よく考えるようになりました」。商品作りには今の生活スタイルを見て、仮説を立てて検証を繰り返すことが大事、ということを学んだそうだ。

恵那の自然

渡邊さんは幼いころから恵那の里山で遊び、自然が大好き。だからこそ銀の森にはたくさんの木が植えられ、また、もとの自然を残した遊歩道があり、訪れた人をわくわくさせる非日常の空間作りがなされている。

恵那は古来より縄文人が多く住んでいたことから、遺跡や石器がたくさん残る場所。銀の森として、文化性のある恵那の地に何ができるか、ということも考えている。

「恵那を活性化していくために、面白いもの、他にないものをやっていかなくちゃいけないと思っています。その見せ方を、驚きでいくのか文化でいくのか。文化度を上げると不思議と敷居が高く



イオンモール各務原店に銀の森2号店がオープン

なり、人が入りにくくなってしまう。でも、恵那の風土がわかるような施設にしていきたい。土の匂いや風の音、これを求めて来てもらえるようになればいいなと思っています」。

銀の森の役割

時代に合わせて変化する食生活の中

で、これからの食生活・食文化を支えることが銀の森の役目だと渡邊さんはいう。

「今の銀の森があるのは、これまでのプロセスがあったから。この原点を大切にしていきたい。例えば、ずっとおせち料理を作ってきたが、ただ作るだけではなく、節句文化がすたれないような発信もしていかなければ。それを伝える場が銀の森にある施設、ごせちえの役割ですね」。お節の由来はご節句の祝いの宴、節会からだ。四季の節目を祝う文化・風習を食で伝えたいと考えている。

胸を張って名刺交換を

渡邊さんの夢は、社員が胸を張って名刺が出せる会社にあること。「働く人たちに報いる会社になりたい」という渡邊さんの想いが込められており、社員が自分の会社を好きになり、自信を持って名刺を渡せる会社になることを目指している。

その想いの象徴となるのが、第一工場



〈しあわせとは?—②〉

の前に立てられた石のモニュメントだ。全社員の名前と手形が刻まれている。

「我が社は女性社員が多いのですが、平均して10年程で退職されます。昔いた女性たちが支えてくれたからこそ今があるわけで、その人たちのことを忘れないためにモニュメントを作りました」。モニュメントに刻まれた『第一の財産は社員であり 働く人は未来の基礎となる』の言葉が全てを物語る。その精神は、M・O・H通信が属する新九州株式会社には『過去には感謝、現在には信頼、未来には希望』の『過去には感謝』の部分や、経営理念の『人を大切に』によく似ている。「退職して、おじいちゃん、おばあちゃんになって孫を連れて遊びに来たときに、ここで働いてい

ただよって自信を持って伝えてもらえる会社になりたいですね」と、笑顔で締めくくった。



次代を担う、渡邊好作専務(左)と渡邊大作社長(右)

第一の財産は社員であり
働く人は未来の基礎となる

銀の森コーポレーション

渡邊大作

●わたなべ だいさく 1945年岐阜県恵那市生まれ。中津商業高等学校を卒業後、父の経営する渡辺豆腐店で家業を手伝い、1970年に業務用すしの製造を開始。1972年、資本金400万円で銀しゃり本舗を設立し、社長に就任。1996年に現地の恵那市大井町に本社工場を建設。2000年にアンテナショップ森の食卓を開設。2011年6月に菓子工場を建設、7月に恵那銀の森をオープン。2014年9月にイオンモール各務原店に恵那銀の森2号店をオープン。現在、おせちななどの業務用の冷凍和洋高級食材と和洋菓子の製造販売ならびに恵那銀の森の運営を行う。

○恵那銀の森

岐阜県恵那市大井町2711-2
TEL: 0800-200-5095
<http://ginnomori.jp/>

③ M・O・Hレポート 〈経済〉しあわせとは「く

伝統産業をおしやれに彩る



きよはら
清原みどり

株式会社清原

● お祝いごとやお悔やみごとで金封を包む際に用いられる「ふくさ」。ふくさの国内最大手メーカーである株式会社清原は、2011年に和雑貨ブランド「和奏（わかな）」を立ち上げ、2013年には和奏の商品を置くショップ・和奏をオープンしました。伝統のふくさ商品に加え、包む文化を楽しく彩る独自商品を展開しています。和奏の生みの親・清原みどりさんにお話をうかがいました。

■和奏（守山市）

■2014年9月29日



No.1のふくさメーカー

滋賀県守山市を拠点とする株式会社清原は、ふくさメーカーとして1971年に創業。以来、裕ふくさ、台付ふくさ、金封ふくさなどの多様なふくさ商品を社内縫製で生産している。

ふくさの由来は「ふくさめる」から。ふんわりとやわらかく包む、という意味がある。日本特有の、相手を気遣い思いやる文化を、ここ守山市から発信している。

優しく包み込んでくれる、やわらかい生地と淡い色は、湖国ならではの素材は滋賀の豊富な水を使って作られる長浜ちりめんを使用しており、最高級の絹織物の光沢さと繊細さ、なめらかさを表現する。

ブランド化で 独自商品を展開

「ものところをやさしく包む」をコンセプトに立ち上がった和雑貨ブランド「和奏」では、化粧用の筆ふくさや

母子手帖ふくさなど、ちょっと意外なふくさ商品も打ち出している。

和奏をプロデュースする清原みどりさんは、百貨店勤務などを経て家業の株式会社清原に入社した。

「はじめは家業に入るなんて考えてなかったんです。ある時友人に、『家業と違う分野で働いた経験があるからこそ、できることもあるのでは?』と言われ、それもそうだな、と思い入社することを決めました」と語る。

メーカーである株式会社清原では、問屋とのやり取りの中で一般のお客さんが欲しいものを直接提案できない現状があった。接客というこれまでの自分のスキルを活かし、お客さんと対話ができる仕組みを作りたいと同ブランドを立ち上げた。

和を奏でます♪

和奏は、日本のものを表す「和」に、清原さんが漢字の形が好きだという「奏」を合わせてできた。

「結構同じ名前のお子さんがおられる

んですよ!お客さんの方から同じ名前ですって話しかけてもらったり手紙をもらったりします。『奏』という字はいろんな音色が重なるという意味もあると思うので、嬉しいですね」。

買ってくれたお客さん、ふくさを贈られた相手、作り手の株式会社清原：ブランドはみんなで作るもの。清原さんは和奏ブランドをみんなで作りたいと考えている。

贈りたくなる商品たち

軸になる商品にはベーシックなふくさや念珠ふくさ、カードケースがある。カードケースは中身を取り出しやすいハニカム(蜂の巣)構造で、使いやすさと美しさを兼ね揃えた商品だ。

特別な時に使いたいのがボトルふくさ。お酒を包む巾着型になっていて、まるでお酒のボトルが包まれているよう。

機能性重視のものより、「まず人に贈りたいものをつくりたい」というのが清原さんの想いだ。

チームワークを大切に

商品作りは社内で、というこだわりを持つ清原さん。自分が持つイメージを、社内のデザイナーがうまく形にしてくれるので助かっているという。

「外部のデザイナーの方に頼むことも必要かもしれませんが、もし売れなかつたとき、社外に原因を作ってしまうと、『売れないのは自分たちのせいではない』というように。お客さんはストレートに欲しいものを言ってくたださるので、それをフィードバックするには社内の人間の方がやりやすいんです」。新卒で採用したデザイナーが育っている。チームワークを活かして商品作りに取り組んでいきたいと期待している。

母子手帖ふくさが できるまで

社内で企画をした商品の一つが母子手帖ふくさ。包んで、巻いて、結ぶ。我が子を想う優しさを形にしたという

- ① 音符のようなロゴデザイン ② 産婦人科の先生のアイデアから生まれた母子手帖ふくさ。優しく手渡してあげたい ③ ふくさめる商品の数々



 **和奏**
W A K A N A

①

③



〈しあわせとは?—③〉

このふくさは、出産祝いの贈り物として人気を集めている。

きっかけは、知人を通して知り合った産婦人科の先生の「記念品にふくさを使いたい」の一言から。母子手帖やへその緒、手形、写真をまとめて保管するためだけでなく、子どもが大人になつてから手に取るときにも使つてもらえるものにしたかった。

「母子手帖は自分がこの世に出る前からの記録。大切な記録だからこそ、ふくさめることの意味をちゃんと伝えられるものになりたいと思っています」。

リピーターも多く、作つてよかったです! と思える商品になった。

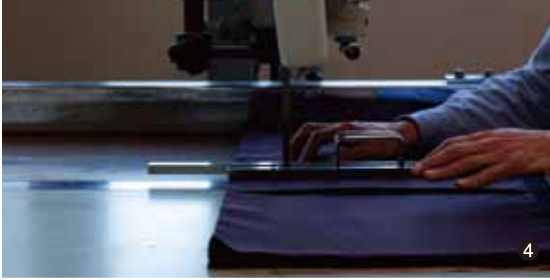
ずっと働き続けてほしい

和奏の製品作りを担うのは、パートタイマーを含む従業員約25名、ミシンを扱うのは20代や40代の女性が多い。多様な働き方を応援しようと内職の技術を生かすしくみがある。

「ふくさは柔らかくて女性の手に合った素材だと思うんです。縫製技術を引

④ 生地を生かした店内 ⑤ 慶事の気持ちをそっと包んで ⑥ お気に入りをふくさめて ⑦ 「かわいい」と手にとりたくなる金封ふくさたち





① 長年の信頼を支える縫製力はミシン技術者の女性たちのおかげ ② 小ロット多品種が強み。様々な産地の素材を使用 ③ 古高町にある社屋の生産風景。ひとつひとつの工程を丁寧に確実に ④ 丁寧な裁断は商品制作の基本。技術者の育成も徹底している ⑤ 古民家の風合いを残しつつ、長方形、正方形のラインが目を引く店舗デザイン

き継ぐために、常に人材を育成していますが、技術はその人にしか残せないから、出産で辞めるのはもったいない。ずっと働いてもらえるように、復帰しやすい環境を整えています」と清原さん。スキルを活かした働き方を提案している。

ブランドの原点はエルメス!?

以前、エルメスの職人の実演を見たとき、「エルメスは企業じゃなくて家業なんだ」という言葉に、はっとしたという清原さん。世界から注目を浴びるブランド・エルメスだが、土地・人・家に愛着を持ってやってきたことで成功したことを知り、ブランド作りの原点はここだと感じた。

「ブランド品は値段が高いイメージがあるけれど、その理由は、はっきりしています。良い品質にこだわって作るからこそ長持ちするし、



〈しあわせとは？—③〉

大事に使える。有名かどうかではなくて、ずっと持っていて良かった、と思ってもらえるようなブランドを目指したい」。和奏を通じて滋賀に興味を持ってもらえたら、ブランドを立ち上げた意味があると清原さんは言う。

包む文化を 発信し続ける

「私の最終目標は、伝えたいことがお客さんに伝わること。売れて有名になることも大事だけど、ブランドは自分一人の考えでは成長しません。包む文化を伝えるとともに、女性が見て、これ持ってみたい！と思ってもらえる商品開発にもチャレンジしたい。やみくもにやるのではなく、私が伝えたい人にちゃんと伝わるやりとりができる範囲でやっていきたいですね」。

異業種との交流も積極的にやりたいと話す清原さん。これ



店内のインテリアにも気配りが

までも都心の展示会に出展してきたが、呉服売り場の範囲を超えて、いろんな業種との出会いを作っていきたいそうだ。

「異業種とのコラボレーションによつ

て包む文化を発信し、和奏が人から人へ伝わるブランドになればいいなあ」。

和奏の原点は豊かな暮らしの彩りの演出、おもいやりの心を伝えることにある。

おもいやりを
ふくむ
清原 せどり

●きよはらみどり＝商業施設の企画運営、百貨店勤務を経て家業である株式会社清原に入社。国内（社内）での縫製技術を生かしたふくさメーカーである自社のブランド「和奏」を立ち上げる。ふくさが持つ古来からの伝統と、自らの経験を生かした今の時代に合った「包む文化」を両方の観点から大切にし、滋賀から発信していきたい。

○和奏

滋賀県守山市守山1丁目80-7
TEL: 077-5882-75080
<http://wa-kana.com/>



木のぬくもり、土の肌合い、緑の新鮮さ。自然の味わいで心がリフレッシュ。岡西さん㊦

④M・O・Hレポート〈経済『しあわせとは?』〉

手作りのカフェで 人が集う場所作り

おかにし
岡西りま

Cafeネンリン

- 岡西りまさんとの出会いは2013年8月。大津市堅田で行われたストローベイルハウス（藁の家）のワークショップ取材の時でした。「今度、ストローベイルハウスのカフェをしようと思ってるんです!」その思いがCafeネンリンとしてかたちになり、2014年5月に湖南市菩提寺にオープンしました。

■Cafeネンリン（湖南市菩提寺）

■2014年9月25日



野菜たっぷりのピザとコーヒー



素材を楽しむ場所

閑静な住宅街に突如現れる外壁がヨシで覆われた家。大きく曲線を描いた壁の構造がユニークで、Cafeネーリンはよく目立つ。

カフェを訪れたのはお昼時。店内は多くの女性客で賑わっていた。手作りの土壁や木のテーブルに温もりを感じ、手入れされた庭を眺めながらほっとできる空間。

メニューは季節のお野菜を使ったピザ(700円)や季節のお野菜を使ったサンド(600円)があり、ドーナツ(200円)、スコーン(250円)、ケーキ(400円)各種はお持ち帰りもできる。こだわりのコーヒー(400円)やハーブティ(450円)などのドリンクも店の自慢。どのメニューも飾り気がなく、ナチュラルな素材の味を楽しめる。※金額は税込のみ価格です。

人が集う場所をつくりたい

カフェを切り盛りするのは、岡西

りません。天然酵母パンやベーグル作りが得意という二人の仲間と、週3日の営業を支えている。

岡西さんはこの地域で育った。結婚を機に京都に移り住んだのだが、母の死をきっかけに、夫婦で父の住む実家に戻り、そこで女の子を授かった。地域のこと、子育てのこと、何もわからなかった岡西さんを支えてくれたのは近所のおばちゃんたち。「お宮参り行ったか?」「こんなんしたらあかんで」と氣遣ってもらう中で、地域の大切さに氣付いた。

「おばちゃんたちに教わる事が多くて、地域のコミュニケーションって大事やなと実感しました。でも、地域の中には集える場所がなかった。だから、みんなが集える場所を作ろうと思ったのが、カフェを始めたきっかけです」と岡西さん。食べることは人を選ばない、食がだったら年齢や性別を問わず集えるのではないかとカフェを選んだ。

壁に温かさがある、ストローベイル





1



4



3



2

① 曲線を表現したストローベイルハウス ② 玄関アプローチもおしゃれ ③ ミニ菜園もある ④ ここを見て、藁が見える

なぜ藁の家？

内壁が藁わらでできたこの建物は、ストローベイルハウスと呼ばれる。ストローベイルとは、圧縮された藁のプロックのこと。このブロックを積み重ねて壁を作り、土を塗るとストローベイルハウスとなる。

弊誌44号で建築家の大岩剛一氏にストローベイルハウスについてご寄稿いただいたが、ここCafeネリンも大岩氏の指導のもと作られた。

「東京に大岩先生が設計されたストローベイルハウスのカフェがあって、その建物の曲線に惹かれたんです。昔から、なんで家って四角い箱なんだろうと思っていて。日本には四季があつていろんなものが形を変えながら、ゆるやかに時間を過ごしているはずなのに、それに反して四角いビルがどんどん建っていくことに違和感があったんです。曲線でも家が建てられるんだと知って、いろいろ教えてもらいたいと先生にお願いしました」。大岩氏との出会いを経て、ストローベイルハウス





5



8



7



6

⑤地域の人、友人、大工さん、興味のある人が集った ⑥ヨシ葺き屋根葺留（よしとめ）四代目の竹田さんがヨシ関連の施工を担当 ⑦大岩先生⑧の指導で成安造形大学の学生もお手伝い ⑧壁の下地にヨシを縦横に組むヨシ小舞をしています

のカフェが実現した。

カフェができるまで

カフェを建てる時、3日間のワーキングホリデーをして、参加者を募り、総勢約130名が参加した。近所の人や興味のある人が集まり、大人も子どもも一緒にあって、泥だらけになりながら作業したそうだ。

岡西さんは「こんなにたくさんの方が集まってくれたことに驚きました！きつとみんな、自然のものに触れたり何かを作り上げたりすることを求めているんだろうな」と当時を振り返る。

ネンリンっておもしろい

どうして「ネンリン」なのか。

木を切るとネンリン（年輪）が現れ、その木の樹齢や歴史を知ることができる。はじめは小さい輪が、年を重ねることでゆっくりゆっくりと大きくなっていく。人間にもネンリンがあるので岡西さんは言う。



ベーグル職人、谷口氏



天然酵母パン教室の先生、加藤氏

「ネンリンって木を切らないと分からないですよ。人のネンリンも、話したり聞いたりすることで分かるんです。自分のことだって、『私、いくつまでおむつしてた?』ってお母さんに聞かないと分からない。ゆっくりと時間をかけて成長したネンリンは、表面だけ見ているとは分からないところが興味深いなって」。そんな思いからカフェの名前が生まれた。

三人揃えば♪

「オーナー一人だけのカフェにはしたくない」という岡西さん。

カフェを支える他の二人とは、以前岡西さんが通っていたという天然酵母パンの教室の先生・加藤保子さんと、カフェの近所に住むベーグル作りが得意な谷口美香さんだ。

「パンを売るだけということとはしたくない。パンを通して生活を大切にしたい」という彼女たちの想いに共感し、一緒に始めることを決めた。

「三人の共通点は、静かに頑固なところ

る(笑)性格もバラバラだし、みんな口に出してあまり言わないけど、やりたいことをしっかりと持っている。そこがなんかいいなと思うんです」と岡西さんも嬉しそうだ。

お客さんに出される料理やコーヒーは、こだわりの素材や味を提供したいという三人の想いが表現されている。

カフェに置かれた日用品

店内で、石鹸やスポンジ、塩や砂糖、子ども用歯磨き粉などの日用品を発見。なぜカフェにこんなものが? これらは岡西さんが使ってみて「いいな」と思ったもの。共感してくれる人が使ってくれたら嬉しいと、ここで販売している。

「私は『これ使ってみて』って人にあまり強要したくなくて。消耗品だから、なくなったら買いに来てもらえるし、食べに来てもらうだけじゃなくて、調味料だけを買って来てくれるだけでもいい。一瞬でも顔が見れる時間ができればいいなと思って、置いていきます」。





スローライフに最適な日用品の数々④ ベーグルとスコーン④ ネンリンの想いを込めた看板も手作り⑤

集える場所になれることが岡西さんの願いだ。

お店の常連さん

お客さんはリピーターが増えてきた。最初は友達と来て、次は娘と来て、そしてお母さんと来て…という人が多い。

女性客の多いCafeネンリンだが、実は、午前中は男性のお客さんの方が多いのだとか。コーヒーや庭の景色を見るのが好きな男性が、朝にケーキとコーヒーを食べに一人で訪れるのだという。

カフェまでの案内板もなく、あえて宣伝しない、訪れた人の口コミから広がっていく、という隠れ家のような存在が魅力の一つなのかもしれない。

「常連さんと言えば、近所のおばあちゃんや、ドーナツをよく買いに来てくれるんです。懐かしい味だと言ってきて。その人が一人いるだけで頑張れます！」。

今後の展望として、大きな未来を描

くより、日々丁寧に与えられたことを懸命に取り組んでいけば、それがやりたい方向にむかっているんじゃないかな？という岡西さん。

営業日は水、木、金曜日の10時30分～17時（臨時休業あり）。常連になりたくなる、地域の中に溶け込むCafeネンリンに、集ってみてはいかが？

根っこ 岡西りま

●おかにしりまII京都府生まれ、滋賀県育ち。人が集う場所を作りたいとカフェを始めることを決意。ストローペイルハウスに興味を持ち、建築家・大岩先生との出会いを経てCafeネンリンが完成。コーヒーの淹れ方やパンの作り方などを学び、ホンモノの良さをカフェで表現している。

○Cafeネンリン

滋賀県湖南市菩提寺西6丁目1・29

TEL..0748・74・2667

<http://cafenennin.tumblr.com/>



郷土の味と地元の食材で「よばれやんせ弁当」

〈M・O・H活動-1〉

第4回 よばれやんせ湖北2014

第4回目を迎えるよばれやんせ湖北は、湖北地方に伝わる伝統料理などを、地域内外から集まったお客様（消費者）に、生産者の思いやこだわりを聞きながら食べてもらうことによって、地産地消の促進を目指す会です。「よばれやんせ」は湖北の方言で「お召上がりください」という意味。湖北の恵みをたくさんいただき、大盛況に終わったイベントの様態をレポートします。

- 長浜バイオ大学 食堂（長浜市）
- 2014年11月23日



新聞記事



11月23日、長浜バイオ大学の食堂で第4回よばれやんせ湖北を開催しました。「生産者さんたちの熱い思いをたくさんの人に伝えたい」「湖北のおいしい郷土料理をみんなで味わいたい」と、主催するよばれやんせ湖北実行委員会がこの日のために準備をしました。

今年のテーマは「伝統食と地域食材でつくるよばれやんせ弁当」。参加者は約70名、生産者・スタッフを合わせると約110名のほり、会場は人の熱気で包まりました。

午前の部は伝統食を学ぶ基調講演とパネルディスカッションです。

講演してくださったのは、京都華頂大学教授で滋賀の食文化研究会・食まなび館の堀越昌子さん。湖北ならではの高月丸なすやえび豆、打ち豆汁、ピワマスなどの郷土料理をご紹介いただき、伝統食と地域食材の魅力を語っていただきました。地産の物を食べるのが大事と訴える堀越先生と、熱心にメモを取る参加者の姿が印象的でした。

パネルディスカッションでご登壇いただいた3名の生産者は、菓匠禄兵衛の居川安子さん、いぶきファームの谷口隆一さん、吉田農園の吉田道明さんで、コーディネーターは弊誌編集長の辻村琴美です。長浜を中心に店舗展開をしている菓匠禄兵衛と、丹精込めて食材を育てるいぶきファームや吉田農園。何かコラボレーションができたらいいなあという声も上がりました。

午後の部は、生産者との交流を楽しみながら、湖北の伝統食がたづぷり詰まったよばれやんせ弁当をみんなで食しました。長浜市の藤井市長の

- ① 社内でもぎを育てています(居川氏) ② 郷土野菜の伊吹大根を食べてください(谷口氏) ③ 米の価格は変動するけど、労力は同じ。精一杯米作りをしています(吉田氏) ④ 伝統食は「命の食」。次世代につなげたい(堀越氏)







- ① 湖北を丸ごと味わってください。いただきます(藤井市長) ② 自慢の味揃い(よばれやんせ弁当) ③ 眠気も吹っ飛ばす唐辛子みそ大根(食まなび館) ④ 湖北のブロッコリーもサラダに(ロハス余呉) ⑤ アメノイオご飯盛付(富久や食まなび館⑤) ⑥ 羽二重餅で、餅つき ⑦ 近江牛は人気(まささ) ⑧ ビワマスも加工品に(長浜市水産物特産品協議会、長浜市農産物特産品協議会) ⑨ 恒例の記念写真バチリ!

直売では食べ方を熱心に聞きながら購入される消費者の姿も。生産者のだわりを聞きながら食すことでファンになり、口コミなどによる情報発信が期待されます。生産者と消費者がつながり、みんなで地産品を支えよう! という絆が生まれた交流会となりました。

最後は吉田農園の吉田さん指導による餅つき。杵と臼でついたできたてのお餅は柔らかく、いびきファームで育てられた伊吹大根のおろしでいただく絶品です。

号令で「いただきます」。堀越さんの講演にも登場したアメノイオご飯の香ばしさが食欲をそそります。近江牛ローストビーフや焼鯖そうめん、山カブドレッシングでいただくツブリナ・ブロッコリー、白菜たたみ漬け、ざるとうふ、ビワマススモーク、ビワマスカマボコ、唐辛子みそ大根、しじみごぼつ、高月丸なす塩きり、えび豆、打ち豆汁、イチゴ、草餅、健康茶など彩りにもこだわったお弁当に舌鼓を打ちました。



自己紹介だけでセミナーになりそうなメンバーたち

〈M・O・H活動-2〉

M・O・H塾スタート

むらかみ ひとみ
村上 瞳

カラー&イメージコンサルタント

2014年3月21日、M・O・H通信10周年記念パーティ「M・O・H cafe」を開催しました。読者、執筆者、登場人物など、89名の方々に祝いしていただき、M・O・H通信のこれからを熱く語り合いました。そして、ついにできちゃいました。まずは、ぼちぼちお友達になりましょうからです。ウフ、楽しみ。

滋賀県には未来の自然環境のことを考えて地道に仕事や活動を続けている「技」を持つ人がたくさんいます。しかし合理化された工業社会ではこの方たちが持つ「技」が継承されず、伝統の技が消えかかっています。また、人も動植物も暮らしやすい豊かな未来にするためには、M・O・H精神を持つだけでなく、M・O・H生活を実践する人を増やさなければという危機感を持ち、どつぽ村の清水陽介さんと共に立ち上げたのがM・O・H塾です。

美しいと思える風景
残したい仕事、やりたい仕事



暮らししてみたい家、地域
一緒にいたいと思える人、仲間

本当に大切なものを大事にできる環境を、自分たちで残していくしかありません。制度や仕組みを待つよりも自分たちで実践していく方が早いでしょう。できる人も、すでに実践している人もたくさんいます。けれども、その人たちが全体としてまとまるための場がないのが現状です。M・O・H塾がその場になることで、新しい仕事のカタチを生み、等身大の仕組みを自分たちで作るきっかけになることを目指しています。

M・O・H塾では美味しいものを持ち寄ってみんなで食事をするように、各々がもつ「技」をM・O・H塾というテーブルに集めます。試食したりアレンジしたりする感覚で、技を持つ人たちが交流し、繋がることで新たな「何か」が生みだされたら素敵ですね。

10月3日、南彦根の彦根リンゴ園にて、第1回M・O・H塾を開催しました。

県内各地から大工、百姓、木工職人、結婚式場支配人、居酒屋経営者など技を持つ19名が参加しました。それぞれが自分の技にかける熱い思いを語りだすと止まらず、第1回M・O・H塾では自己紹介がメインの会合となりましたが、第2回以降では何かを生み出していきたいと思っています。

M・O・H通信で紹介されている方たちのことを「すごいなあ」と感心するだけでなく、自分の暮らしの中で徐々に循環型社会の創造につながる「実践」を増やしていくことが大切だと思います。目先の利益や利便性に惑わされず、未来に暮らし良い環境を残すには、今を生きる私たちはどのような暮らし、選択、活動をしたらよいのか。循環型社会の実現に向けて一緒に何かを生み出しませんか？

※M・O・H塾の第2回は、12月13日(土)長浜市木之本町大音の古民家「源佐」で、ジビエ鍋を囲みながら情報交換や交流をしました。

M・O・H 塾の目的

- ① M・O・H (もったいない・おかげさま・ほどほどに) を大切にしながら、循環型社会の実現にむけて取り組む人を増やす
- ② M・O・H 実践者をつなぐ
- ③ 繋がって何かを生み出す (創造する)

真善美 村上 瞳

●むらかみひとみ 岐阜県生まれ。実家は450年続く百姓で、幼いころから林業、農業、養蚕、養鶏の手伝いをしながら山の中で育つ。現在は守山在住。ウォーキングや立ち居振る舞い、カラーコーディネートの講師をしながら、兼業農家の主婦として米、野菜、果樹を栽培。



第2回のチーズ作り体験

～食 hana 咲かそう！～ 食について話す交流会 2014



Nadeshiko Farmers

2013年発足した農業などに関わる事業者・個人のネットワークを作る「なでしこファーマーズ」。「食hana咲かそう！食について話す交流会」と題して研修や交流会を開催しています。2014年度は「作物から商品へ」をテーマとして9月・11月・1月の3回交流会を行います。



牛の乳を子牛の胃の中にある酵素で醗酵させてチーズになる



食hana咲かそう！

食について話す交流会2014 「技を知る〈作物から商品へ〉」

1



1



4



2

①大津・野洲・草津・守山から集まったメンバーたち。初めて来た人は約半数 ②「サイズにバリエーションをつける事で売れ筋がわかる」高木氏 ③滋賀県と岐阜県の境にある甲津原漬物加工部。お買い物や喫茶もできる

9月11日、農業などに関わる事業者・個人のネットワーク「なでしこファーマーズ」が主催者となり、研修交流会「食hana咲かそう〜食について話す交流会〜2014 ①」を開催しました。2014年度の活動のテーマは「作物から商品へ」。この日は、米原市(旧伊吹町) 甲津原へ山菜や農産物の加工販売に取り組まれている「甲津原漬物加工部」を訪ねました。甲津原は岐阜県境に接する奥伊吹地域、そこへ県内各地から22名が集まりました。

講師をお願いしたのは湖北農業農村振興事務所農産普及課の高木ひさ子さんです。高木さんは、湖北地域で活動されている農家女性の生産加工団体への加工技術指導、直売所での商品開発指導などに関わられ、甲津原漬物加工部にも指導・開発支援のご経験があります。この日は伊吹山麓で作られる伝統野菜「伊吹大根」の加工販売事例と、甲津原で取り組まれた山菜の商品化・販売事例を取り上げて講演していただきました。特に伊吹大根のドレッシング販売については、地元道の駅「伊



①「わあ〜すごい! 47もある」甲津原いろはうた ②「毎回、中味は違います」本日の伊吹の里弁当 ③この手作り感が、いいよねえ ④伊吹大根 うま辛ドレッシング ⑤米原の赤丸がぶドレッシング ⑥伊吹大根おろしドレッシング ⑦伊吹大根のど飴 ⑧会場の前にトチの実が鈴なり

吹の里旬彩の森で販売されている品物を前に、サイズや価格帯による売れ行きの変化について教わり、いろんなバリエーションの商品を準備する強みを学びました。実物があることでとてもわかりやすく、参加者からは納得の声が何度もあがりました。

講演後の昼食は、甲津原漬物加工部の山菜たっぷり「伊吹の里弁当」と手打ち蕎麦です。手作りのお品書きには甲津原の山菜がなんと10種類。地域の品を使い色とりどり、味わいも食感も多彩なお弁当でした。

昭和61年から活動開始された甲津原漬物加工部は、ミョウガを始め各種山菜の加工商品づくり、手作り味噌の販売も手がけられています。今では次世代が育ち、土日曜に開店する喫茶「麻心」も始まりました。午後からはそのようなお話も伺い、参加者との意見交換ができました。甲津原の地域の幸を活かす技の一端を、交流とお弁当の味わいで知った研修会。甲津原のみなさんの温かい雰囲気にもまれて閉会しました。



食hana咲かそう！

食について話す交流会2014

2

食育体験メニューづくりを学ぶ
〈作物から商品へ〉



①「あはになって吸収することで可能性は広がる」古株氏 ②チーズを追求してヤギも飼っています ③「つやこフロマージュありますか」店頭販売からお客様との会話で気づくことも多い ④「たんぱく質を固める酵素を入れてプリン状になったら切り込みを入れて」お兄ちゃん上手

「食hana咲かそう」食について話す交流会「2014」の第2弾は11月3日古株牧場に於て、「食育体験メニューづくりを学ぶ」をテーマに開催しました。古株牧場は竜王町にあり、ジェフルーツや洋菓子などの乳加工品販売の他、古株つや子さん手がける滋賀県産チーズで知られています。交流会では、つや子さんが先ごろ始められたモツツアレラチーズづくり体験メニューを基にして、「体験」を通じて消費者に「食」を伝える「食育」のコツを学びました。

まず、なでしこファーマーズアドバイザーの中村貴子さん（京都府立大学講師）のコーディネートの下、古株つや子さんから古株牧場の取り組みとチーズ作りのきっかけを伺いました。「手に職をつける」という思いで美容師から転身、家業の牧場経営へ参加し、手探りの中チーズ作りを始められた経緯から、さらなる知識や経験の習得を目指し単身フランスの農家で研修を受けられたことなど、滋賀県初の熟成チーズ作りへのひたむきな熱意が



①



④



②



③

①「80℃のお湯に入れると固まります。ほら、これが割けるチーズ」②固まる前の状態。フレッシュでいける③丸く形成して見慣れたモッツアレラチーズに④体験後のアンケートタイム



感じられるお話でした。参加者は21名、消費者から農業従事者まで様々でしたが、技の学び方や、チーズ作りに取り組み始めた動機などに共感される方が多かったです。

チーズ作り体験は、2グループに分かれて行いました。最初に体験したグループは次に体験する人たちの指導役になってもらい、体験メニュー運営の疑似体験をする仕掛けです。お湯を使ったり、できあがる寸前のチーズを練ったりと、楽しい要素満載の作業に、いっそうにぎやかになります。それぞれのチーズを食べ比べ、わずかな作業の違いがチーズの質感に大きく影響することを実感。つや子さんのレクチャーを通して食育の工夫を学び、手作りチーズの繊細さを知るなど、有意義な体験となりました。

参加者の感想からは、始めて本格的なチーズ作りに触れた楽しさや、酪農業への理解の深



参加者が持参した弥平とうがらしのスパイスをチーズに合わせると絶品。野菜やブルーベリー作りに挑戦する若きスターたちが参集

まり、つや子さんのチーズ作りの挑戦への関心などが集まりました。体験を通じて楽しみながら交流でき、充実した研修内容となりました。

食 hana 咲かそう！ ～食について話す交流会～ 2014③ in セトレ マリーナびわ湖

- 日 時：2015年1月24日(土) 10:00～15:00頃
- 場 所：セトレ マリーナびわ湖
- 参加費：5,000円
- 定 員：50名
- 内 容：
 - 滋賀の農産物アレンジ
スペシャルランチコース
 - 作り手のトークセッション、
マルシェなど

■ お問い合わせ

Mail:oubo.event@gmail.com

FAX:0749-72-8681

住 所：長浜市川道町759-3 新江州株式会社
循環型社会システム研究所 M・O・H通信内
(※M・O・H通信辻村宛)

次回は
2015年
1月24日(土)
開催です!

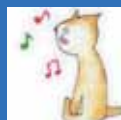


沖島通船で上陸

美の滋賀語り部マイ★スターになろう！ 美の滋賀語り部マイスター講座 2014

美の滋賀語り部マイスター養成講座は、滋賀にある様々な「美」とそれを培った風土を通して、「滋賀の良さをアピールできる」「自分の住む土地を誇りを持って紹介できる」そんな力が湧き上がる一助になればという思いで企画し、昨年から滋賀県「美の滋賀」地域づくりモデル事業に採択された事業です。全4回中3回以上の参加で「美の滋賀語り部マイ★スター」の認証を受けていただけます。

主催/NPO法人 環人ネット



第1回 暮らしの美

近江八幡市
沖島

10月19日、第1回目は「暮らしの美」をテーマとし、近江八幡市の沖島を散策しました。講師&ガイドは滋賀県立大学の上田洋平先生です。沖島初上陸の方から常連さんまで、20名が参加しました。

世界でも珍しいという湖の中に浮かぶ人の住む島には、車がありませんでした。島民約330人、昼間は漁師さんの睡眠時間となり、しんとした集落には、人の話し声や動物の動く音だけが聞こえます。この日は天気が良くて絶好の散策日和でした。これぞ沖島！という尾山の北西斜面を平坦にして作られた畑（千円畑）は絶景でした。米以外は自給自足出来るという「暮らし」の原点を、琵琶湖の真ん中で考えさせられました。

- ①「沖島は近江小宇宙。山一里一湖」上田洋平先生
- ② 畑の手入れで一休み。この日は美しい景観
- ③「春が楽しみ」お花見広場



2



1



3





6



7



①「ここを見てほしかった」千円畑（採石場跡）港より徒歩20分 ②「肩を寄せ合う家に」奥津嶋神社 ③神社の境内から対岸を眺める ④「暮らしの豊かさを伝えたい」沖島コミュニティセンター ⑤「湖漁たちが水槽に」港屋前 ⑥夕日が沈むころ、堀切港に到着。右手に沖島のシルエット ⑦「なぁ〜んにもしないでくつろげる」沖島漁港にて

第2回 信仰の美 長浜市高月



- ①「お堂のたたずまいに見とれる」唐喜山赤後寺 ②「火事です！戦が！隠そう！」村人の思いを語った井上ひろ美氏③
③「正座が自然にゆったりと」コロリ観音拝観

第2回は11月1日、「信仰の美」をテーマに観音の里・長浜を巡りました。参加者は10名です。

はじめに滋賀県立琵琶湖文化館の井上ひろ美さんから、「仏像には信仰としての見方、文化財としての見方、美術としての見方があり、いずれも人の心を捉える崇高な信仰に支えられている。自分が何を感じるか、誰に何を伝えるかが、語り部に求められることだ」と教えていただきました。

続いて長浜市立高月観音の里歴史民俗資料館の佐々木悦也さんの案内で赤後寺あかごじのコロリ観音様と西黒田安念寺あんなんじのいも観音様を拝観。度々の兵火をくぐり、傷んだお姿の湖北の観音様達が、村のお堂に代々守り続けられている様子を、村の世話役さんの話と共に、見学することができます。信じ、敬う心のありようを考えさせられました。





5



4



6

- **第3回 街並みの美** (開催済み)

● 日時：2014年12月14日(日)

● 場所：近江八幡市本町

● 講師：濱崎一志氏 (滋賀県立大学 教授)
- **第4回 文化の美**

● 日時：2015年1月11日(日)

● 場所：甲賀市油日神社

● 講師：大沼芳幸氏 (滋賀県文化財保護協会)
- **問合せ・申込み**

NPO法人 環人ネット

彦根市石寺町1-263 (事業担当：北井香)

TEL:090-4114-3366

mail: oubo.event@gmail.com

④「言葉はいらない。心で交う」いも観音 ⑤存在が美しい安念寺 ⑥「戦火をくぐり抜けたホトケたちにあう」高月観音の里歴史民俗資料館

Information

◇ 二口リ観音

伊香西国三十三所観音霊場
唐喜山赤後寺
住所：滋賀県長浜市高月町
唐川1055
拝観料：300円

◇ いも観音

伊香三十三所観音霊場
天王山安念寺
住所：滋賀県長浜市木之本
町西黒田2044
拝観料：300円

◇ 高月観音の里歴史民俗資料館

住所：滋賀県長浜市高月町
渡岸寺229
TEL:07491852273
<http://www.city.nagahama-shiga.jp/section/taka-tsukirekimin/>
入館料：高校生以上300円、
小中学生150円

人賊の森
環人ネット



近江環人

初冬の里

三山 元暎

さし絵: 中川 善雄

この季節、三島池の周りを歩くと、安らいだ気分になる。池は水鳥の楽園となり、日ごとに飛来数が増え、生き生きとにぎやかになる。

十数年前までは、マガモに次いでオシドリが多く見られたのに、久しく姿を見せなく



なった。代わって、人なつっこいオナガガモやヒドリガモが目立つ。餌を投げ与えると、競って岸辺に寄ってくる。

餌を与ふまでは仲良き

鴨の陣 友水清

伊吹山が雪化粧する日も近

い。逆さ伊吹が水面に映える三島池からの眺めは見事だ。白く凜としたその孤高さは魅力的で、いくら見ても見あきることがない。

わが家の庭の隅っこで、ツワブキが黄金色を輝かせている。寒々とした初冬の庭の隅を照らして咲くさまは、あざやかで美しい。フキの名がついているが、別属の植物である。共通しているのは、野菜として茎を食べるところだ。

ヤツデの花も小さな白い炎を燃えあがらせながら、ひっそりと咲いている。かつてヤツデは、邪悪の侵入を防ぐ呪力があるという信仰があった。古代の人びとは、厳冬にもみずみずしさを失わない厚く大きな葉に、悪魔を退散させる強烈な生命力を感じたのかも知れない。

ツワブキの花が消えてなく

なり、ヤツデの花が散り終わる頃になると、足早に年の瀬がやってくる。

静かなる月日の庭や

石路の花 高濱虚子

おおかたは説明不用

花八つ手 佐々木玄二郎

三山 元暎

●みやま もとあき 11940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市との合併にもめない退任。真宗大谷派真勝寺前任住職。

中川 善雄

●なかがわ よしお 11936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。





「花が好き」主婦が企てた体験型観光農園

環人ウォーク

ローザンベリー多和田 視察

- ◆日 時 / 2014年10月18日(土)
- ◆場 所 / ローザンベリー多和田 滋賀県米原市多和田 605-10
- ◆プログラム
 - 9:30 米原駅集合
 - 10:00 研修 (カフェにて大澤恵理子氏の話)
ガーデン案内
 - 11:20 昼食・バイキング
 - 12:30 クラフト工房での体験 (希望者のみ)
 - 14:00 終了
- ◆参 加 / 7人
- ◆主 催 / NPO 法人コミュニティ・
アーキテクトネットワーク(環人ネット)
- ◆レポート / ダッシー津田



まねき猫がお出迎え (ガーデン入り口)

ローザンベリー多和田は、専業主婦だった大澤恵理子さんが荒れ放題の採石場を有機農場、レストラン、カフェを持つ緑の土地に変えた、ということと、以前から気になっていた場所でした。

オープンして直ぐの2011年11月にM・O・H通信で取材されていて、今回はそれから3年間の経験を大澤さんから伺うことができました。

「私の多和田物語」(2011年8月出版)を読むと、大澤さんは、子育ての手が離れたら、自分を活かして何かやりたいとずっと思っていたそうです。小さい頃から、我が子のように花をかわいがるお父様の庭づくりを手伝っていたこと、また、田舎暮らしの環境で、お料理作りを工夫しながら楽しむ家族に囲まれて育ったことが、この仕事へと結びついたそうです。

30年前は女性が働くことを良しとしない風潮もめずらしくなかったので、外で働いた経験もなく、いろいろなか

とを失敗しながら工夫の3年間だったそうです。

とくに、開園したての1年目は反省点がたくさんありました。冬を迎えていったん閉園できて、ほっとされたそうです。「その後、いろいろなこともあったけれど、生来の打たれ強さが幸いして、今では『前向きな希望が持てるようになりました』と、現在の気持ちを語ってくださいました。

また、「家庭の中にいるだけでは味わえない、様々な人に支えられている、という体験ができ、それが本当の感謝の意味を知る経験につながりました」と、控えめに語られていました。

今回はスライドなどもなくお話しただけでしたが、そのことでかえって話されている内容に集中できました。大澤さんの飾らない率直な自然体の語り口から、これまでの体験がそのまま素朴に伝わってきて

良かったです。

レストランではビュッフェ形式のランチで、循環型農業・有機栽培で育てられた食物も味わうことができました。米原駅からは車でおよそ15分ほどの距離です。カフェだけでもまた、訪れてみたいと思いました。



「かわいいでしょう。山野草って大好き」大澤社長Ⓞ



ROSE & BERRY Tawada- A full-time housewife has changed a barren quarry into a wonderful land complete with gardens, an organic farm, a restaurant, and a café in Maibara, Shiga, in Japan.

I was interested in ROSE & BERRY Tawada because I had heard a housewife, Eriko Osawa, had changed a barren quarry into a wonderful land with flowers, plants, and trees.

Her story was once before reported in this quarterly in Nov. in 2011, soon after the place opened as ROSE & BERRY Tawada. This time, we were able to listen to Mrs. Osawa's story again almost three years later.

In her book, "Watashi-no-Tawada Monogatari," published in Aug. 2011, she wrote she had been thinking about doing something to define her personal identity when her children grew up and needed to be watched less.

In the book she also says that the reason she chose to create a place like ROSE & BERRY Tawada is because during her childhood she used to help her father with gardening. He loved flowers as though they were his children, and by living in a rural area she had grown up with family members who really enjoyed devising various ideas of cooking; such surroundings lead her to this work.

As a matter of fact, thirty years ago when Mrs. Osawa lived in the rural area, it was not rare for people to think that it was not a good thing for women to work outside, and that they should stay inside. Because of that, Mrs. Osawa had no experience working outside before she began ROSE & BERRY

Tawada. As a result, she experienced various kinds of difficulties and has spent the past three years figuring out how to grow her business in the right direction.

The first year was especially hard; when she had opened the place she realized there were a lot of points to reconsider, so when winter came and she was able to close the place for the season, she felt relieved. She still had a lot to overcome. Mrs. Osawa remained tough and never gave up, persevering through each new setback. These experiences reminded her that her spirit was a survivor. She humbly added, "I cannot say very much because there are more people who have overcome tougher hardship than me."

She concluded that reflecting past three years, it was her pleasure that she was able to get a forward-looking attitude through overcoming hardship.

She also added with modesty, "If I stayed at home, I could never experience such feelings. I am supported by various kinds of people and through this experience I feel I know the real meaning of 'thankfulness'."

Though there was no slide show to go with her speech, I felt that it made the audience concentrate more on the points she wanted to convey most. Her simple, humble, and natural speech allowed us to understand her experiences as it really was.

In her restaurant, we enjoyed a smorgasbord-style lunch. All of the food was organically grown in circular agriculture system.

ROSE & Berry Tawada is only 10 min. from Maibara Station, and if I have a chance, I would like to visit the cafe next time!



2



1



5



4



3

①「お客様とのお話しが身につきます」カフェにて聴講 ②「ファームの野菜を使って」レストラン ③「シックな色合い」英国風の入り口 ④「お散歩気分」ガーデンから体験工房へ ⑤「かわいい小物がいっぱい!」やわらかい雰囲気
の店内

● だっしーつだい滋賀県立大学地域再
生学座 近江環人 前期終了。中学校、高
等学校、塾等で英語を教えた後、英語が
できなくても話せるようになりたい、と
思っている人たちのために、勉強時間が
あまり取れなくても習ったはしからすぐ
に使えて、ネイティブ（英語を母語とす
る人たち）にもきちんと通じる、シンパ
ルな英会話法を独自に考案しながら教え
ている。

また、その人が描いた絵を通して大人
や子どもの性格や適正、感じていること
を診断できるアートセラピストでもある。

一億人の英会話 だっしー津田

人賊の森
環人ネット
近江環人



ローズとベリーが合体して
ローザンベリー



本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVDをご紹介します。

BOOKS

わたしたちのアジア・太平洋戦争



- 編者／古田足日、米田佐代子、西山利佳
- 発行／葦心社
- 価格／3300円＋税
- 内容／戦争の体験から読み解くわたしたちの道。①広がる日の丸の下で生きる②命が紙切れになった③新しい道を選ぶ。二巻に今関信子氏の「少年のとき、毒ガス島で働いた」を掲載。かつての毒ガス島が今では…。

分かち合いの経済学



- 著者／神野直彦
- 発行／岩波新書
- 価格／778円＋税
- 内容／日本の産業構造や社会保障のあり方を検証し、誰もが人間らしく働き生活できる社会を具体的に提案。

里山資本主義



- 著者／藻谷浩介、NHK広島取材班
- 発行／角川書店
- 価格／843円＋税
- 内容／課題先進国を救うモデル。その最先端は、里山にあった。危機を越え未来を生む、すり潰されない生き方を提言。

滋賀のええとこ 2015カレンダー



- 写真／辻村耕司、古川せつじ、上田敏雄
- 編集／亀岡美穂
- 発行／ブラスエイチワークス林正隆
- 価格／1600円＋税
- 内容／FBファン数が滋賀No.1のメディア「しがとこ」から生まれたカレンダー。 <http://shigatoco.com>

くじらハラッパのもごっこ



- 著者／綾牧生、北岡七夏、富塚麻央
- 発行／くじらハラッパ
- 内容／自主保育「くじらハラッパ」お母さんたちの情報ノート。クジラのようにゆっゆくと、ハラッパや自然の中で遊んでほしい。ママの願いが込められた一冊。

「流域治水」ってなあに？



- 発行／滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室
- 内容／弊誌42号で紹介した、滋賀県が全国に先駆けて取り組む「流域治水」をM・O・Hファミリアがご案内するイラストストーリーが、パンフレットに！

ながはまのお庭 第三号



- 編编者／ながはまのお庭プロジェクトメンバー
- 発行／特定非営利活動法人まちづくり役場
- 内容／長浜のまちなかの風情を訪ねる。北国街道沿いのお庭5邸、まちなかのお庭7邸、作庭日記など。庭を楽しむ一冊。



続 ドイツの誇りと国民性

原 修子



イラスト：千田 満

お国が違えば議会も…

「……」。

というお顔。これは私が日本の方々に

「ドイツには日本の文科省にあたるものは連邦政府にはなくて、教育は地方自治体の責任で行うものなので」と説明した時に良く出会う。

「私が住んでいる所の市議会には、議長はいません。市長が議長を勤め、そして投票権もあります」 「ここでは任期は6年ですけれど、他の州へ行けば4年のところもありますし、また議長がいるところもありますよ」と続けば「？」の数が頭の中で増えて行くのが見えるよつである。

自立する州

ドイツの正式国名は

Bundesrepublik Deutschland。日本語にはドイツ連邦共和国と訳されている。

しかし個々の邦は、例えばバイエルン州というように、邦ではなく州が使われている。国名が示しているように、ドイツは州の権限が強い国である。

地名に愛着あり

ガルミッシューパルテンキルヘンという町がオーストリーとの国境にある。冬季オリンピックが開催されたこともあり、またドイツ最高峰ツークシュツピッツェの町としても知られている。

この1で繋いでいる長い名前。これはかつて独立した自治体であったガルミッシュとパルテンキルヘンが合併される時にどちらも自分の州の名前を残したいと言う事で生まれた名前。この様



な例はドイツには多い。また州もメッケンブルク・フオアポマンのような例がいくつかある。

地方の担当と責任

地方の権利が強い、それはその地に住む人々の住む地への結びつきの強さを示すものかも知れない。歴史的背景も見逃す事は出来ないであろう。だから教育にしても、制度の大枠は全国統一であっても、それをどのように実行するかは地方の責任、地方の担当。下から持ち上げられて来た課題は、上にあげ、最終的には各州の話し合いで全国的な調整を計るということになる。

市長、市議会の権限、あるいは任期もしかり。連邦憲法という大枠のなかで、それをどのように行

政に生かすかは州の担当であり、責任となる。州法の中でそれを、その地にあつたものに行かして行くか、それは州内の各地方自治体の担当であり、責任となる。

住みたいバイエルン州

ところで、私が住んでいるのはドイツでも独立心の強いと言われているバイエルン州である。かつては農業・酪農の地方だった。先進的といわれた工業地帯にくらべて後進性がいろいろと言われ、しかも政治的にはカトリックを基盤とするキリスト教同盟が圧倒的な強さを保っている保守の地。しかしその地が現在では、ドイツでも最も豊かな州となり、州都ミュンヘンには人々が住みたい都市第一位となつている。その後には、かつては不利と思

えた地の特徴を、その地を知っているその地人間だから出来る対策で逆転へと導いた努力があつた。例えば企業誘致を積極的に行う一方、観光の為には大きな魅力要素である景観を残すための対策を忘れないというように。

ないものもあるものにあるものを有効に

ないものねだりをするのはなく、あるものを有効に生かす。ないものはそのままの形で移行させてくるのではなく、その地にある形にして受け入れる。

これも地方の権利が護られていたから？ いや強いから？ それとも侵させないから？ 日本で出来るのかな？ 私の頭の中で、「？」が増えて来た。

原修子

●はらしゅつこ 徳島市出身。1972年よりドイツ、アウグスブルク市在住。國學院大学文学部哲学科及びアウグスブルク大学カトリック神学科卒業。職業、通訳。翻訳。

M. Senda

●せんだ みつる
11950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラス・トレーシヨンス タジオアピロー」設立。イラス・トレーシヨンスを中心としたポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパッケージ・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

山暮らし子育て日記

イベント 編

作:オミキ

10月19日(日)快晴の中、
 栃の木祭が開催。
 LET'S GO!!
 3=3
 行かん

くつき村はちろく、
 朽木針畑地区、山帰来
 が会場。
 まずは、集落同士を
 結ぶ峠道を歩くツアー
 に参加。

坂越
 のしげ能家
 谷
 古屋

参加者 最年少は
 うちの次男。
 何歳?
 がんばる
 さんぽ
 とちゅう
 全中、トチノキの
 巨木林に寄る。

樹齢何百年規模
 の大木が
 6〜7本 自生。

ゆくりの2時間半かけて
 峠を越え、古屋区に
 到着。
 わたしは、この道を
 2年間、毎日歩いて
 古屋にある中学校
 に通ってます。
 別のおいさんの話では
 わたしは自転車
 かついで峠越えて
 市場まで出かけてました。
 古屋在住
 梅本さん

能家 在住
 のしげ 清水さん

なめこ汁
 トチノキノ
 うどん
 自然の恵み
 鯖寿司

トチノキノ味の
 トチノキノ
 濃い
 トチノキノ味

12時半に、栃の木祭、
 オフミウセシモニ。
 地元小学生の和太鼓演奏
 針畑産トチノキノの実の
 トチノキノ

お久しぶり
 オミキの
 中学時代の
 塾長と
 奥さん

おいさんのお母さん
 知ってるわよ
 近くに住んでる
 ナラにビニビニ、クリ、
 決めの先生

クラフトコーナーでは、
 トチノキノでバタナイフ
 作り。
 トチノキノの実決め。
 ナラにビニビニ、クリ、
 決めの先生





栃の木祭の主権者は巨木と水源の郷をまもる会です。数年前に樹木伐採業者により、樹齢何百年の朽木のトチノキが伐採され、源流域に大きな傷跡を残しました。昔から人と森との関わりで培われてきた暮らしが崩れ、消失するのでは、という危機感をつらせたことで組織されたこの会は、自然保護活動、巨木などの地域の宝探し推進、地域再生への取り組みなども行っています。（「巨木と水源の郷をまもる会」で検索してね！）

トチノキの恵みに感謝す

る栃の木祭はお天気にも恵まれ、たくさんの人で賑いました。少し残念だったのは、朽木在住の親子連れがほとんどいなかったこと。せっかく自分たちの住んでいる地域に大きなトチノキが自生し、その恵みを受けて暮らしているのですから、もう少し朽木の人も来て欲しいなと思いました。

それにしても「水源の郷をまもりたい」という思いを持つ人がこんなにたくさんいることが嬉しかったし、会の方が精力的に活動してくださっているのが頼もしかったです。

●本名加藤みゆき。人口17人の集落に住み3人の子育てに奮闘中。将来、家族で海外へ旅行するのが夢。

講演日記

執筆者懇談会37

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。2014年9月～11月の講演をダイジェスト版でお知らせします。



- 日時：9月25日
- 場所：やま喜
- 参加：13人
- 内容：46号「経済」しあわせとは？」の特集を決定、今後の取材先の候補を検討した。47号では執筆者の内藤先生、花田先生による寄稿を検討中。

本徳寺講演

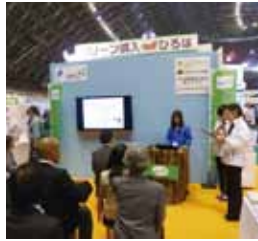


- 日時：9月28日
- 場所：本徳寺(長浜市)
- 講師：森建司
- 演題：「M・O・Hの心で生きる幸せの道」
- 対象：一般
- 参加：30人
- 内容：人はお金があれば幸せとは限らない。利益第一主義の世界から共生社会へ転換すべく、昔の生き方を振り返り、道徳を復活させようとした。

びわ湖環境ビジネス

- 日時：10月22日
- 場所：長浜ドーム
- 講師：上岡瞳

- 演題：「もったいない。おかげさま。ほどほどに」が環境と人を育てる」
- 対象：一般
- 参加：約20人
- 内容：滋賀GPNのブース内のミニセミナーに参加。M・O・H通信の活動内容を紹介した。



- 日時：10月29日
- 場所：中野公民館(長浜市)
- 講師：森建司
- 演題：「M・O・Hの心で生きる幸せの道」
- 対象：一般
- 参加：8人
- 内容：本徳寺の講演

虎姫おやじの会

にいられていた同会の方からの依頼で実現。個々のスキルを活かしたボランティア活動を行う同会の取り組みも面白い。



- 日時：11月15日
- 場所：ブータンミュージアム(福井市)
- 講師：森建司
- 演題：「M・O・Hの心で生きる幸せの道」
- 対象：一般
- 参加：40人
- 内容：同ミュージアムの開館3周年記念講演。経済至上主義における自己矛盾を指

ブータンミュージアム講演

摘し、M・O・Hで心の幸せづくりが大切だと力説した。



- 日時：12月13日
- 場所：東京大学
- 講師：辻村琴美
- 演題：「持続可能社会の扉を開くM・O・H通信」

淡海子どもユウフラ

- 日時：12月14日
- 場所：琵琶湖博物館
- 審査員：辻村琴美

活動交流会

- 日時：12月14日
- 場所：琵琶湖博物館
- 審査員：辻村琴美



第8回 ♪M・O・Hせんりゅうコンテスト 2014♪

ベスト3決定

皆さまよりご応募いただいた「M・O・Hせんりゅう」の中から、今年もベスト3を選出しました。

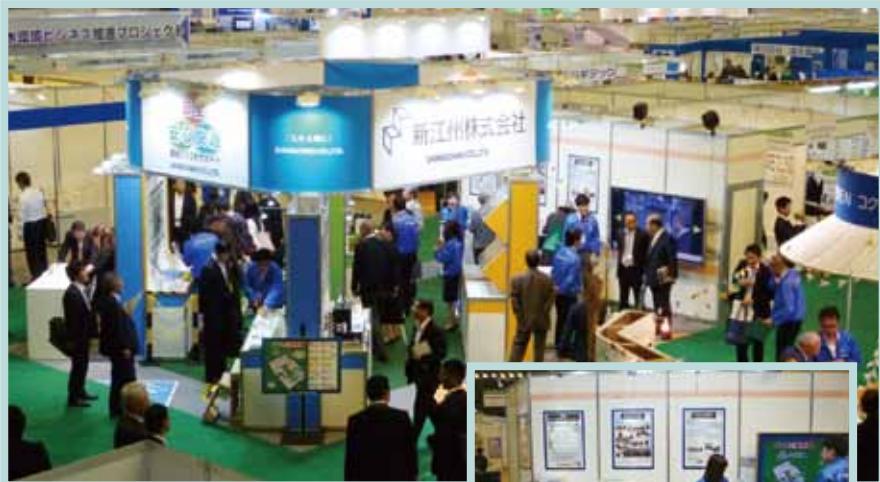
編集部での1次選考、執筆者懇談会と社内での2次選考を経て、びわ湖環境ビジネスメッセ2014で選ばれたベスト3の発表です！

《1位》 ほどほどに 足りないくらいが 丁度いい (支持率22.6%)

《2位》 もったいない 滋賀を知らない もったいない (支持率10.7%)

《2位》 見つけよう 身近にひそむ もったいない (支持率10.7%)

<次点> もったいない 先進国ほど 食べ残す (支持率9.4%)



「もったいない」を使ったせんりゅうに人気が集まった今年のコンテスト。昨年、一昨年は「おかげさま」が人気でしたが、3年ぶりに返り咲きです。

びわ湖環境ビジネスメッセでは160名に投票のご協力をいただきました。多くのご

参加、ありがとうございました。

引き続き、M・O・Hせんりゅうコンテスト2015へのご応募もお待ちしています♪

RE EDENのヨシ筆ペン



コクヨ工業滋賀様から、いただいていたしました。びわ湖淀川水系の天然ヨシを一本ずつ見極め丁寧に手作りした、筆運びの滑らかな、「ヨシ筆ペン」です。『祝☆M・O・H通信10周年』と名入れも。弊誌の恒例として取材時にお名前と一言を書いておりますが、その際に利用しています。同社を訪問した時に、「いいなあ、このヨシ筆ペン」と思って見ていた弊社編集長の気持ちをお汲み取り下さった模様です。ありがとうございました。

●協力／コクヨ工業滋賀

第2回M・O・H cafe 開催！ 来春3月15日(日)



第2回「M・O・H cafe」を開催する予定です。

- 日時／2015年3月15日(日)11:00～
- 場所／長浜ロイヤルホテル
- 内容／未定

詳細はM・O・H通信のブログでご案内します。

さとうという名のハチミツ屋



養蜂家と結婚したアーティスト仲間からハチミツが届きました。

「春一番」ハチミツは料理に使ってクク出しに。「レンゲ」はあっさりそのままどうぞ。

「百花」は花の香りの楽しめる蜜です。薬効のあるキハダという、まっ黄の木肌をもつ木の蜜も入ってます。フェイスパックにもどうぞ。

●問合せ／Mail:lakephoto.landscape@gmail.com

長野からご長寿企業! 炭平400周年



炭平コーポレーションは、明治26年14代鷲澤平六翁が、近代産業の基礎というべきセメントに着目し、長野県下で初めてセメント販売を開始したバイオニア。以来新しい可能性に挑むチャレンジ精神で歩み続けてきました。現在は「すみへいカルチャーセンター」やメガソーラーにも取り組んでいます。10月23日炭平創業400周年記念祝賀会がTHE SAIHOKUKAN HOTELで執り行われ、約220名が参加されました。

●主催／炭平コーポレーション



木村さん家の にこやか

© サトウチユウコ



大丸山科店にて 「滋賀のええもんフェア」開催



▲ローザンベリー
多和田



▲魚のゆりかご
水田プロジェクト



◀比良里山クラブ

2014年11月5日から11月11日まで、大丸山科店にて「滋賀のええもんフェア」が開催され、なでしこファーマーズのメンバーが出店されました。

連日多くのお客さんと賑わい、滋賀の魅力を発信する良い機会となりました。

マンガ作家紹介

本誌の右下をバラバラして下さい。
何かが動きます。左の4コママンガも。

サトウチユウコ

郷内ユウコ

色鉛筆が好きで、マンガやイラストなどを作成している。

「メリークリスマス」

特別な日くらい、普段と違っていいのかも…と、猫とネズミがクリスマスを楽しむ様子を描きました。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心か思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

shingoshu.co.jp

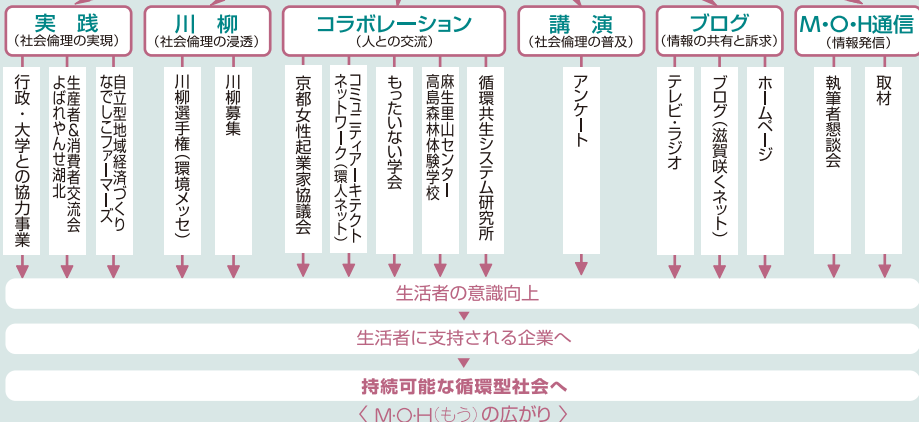
代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

上岡 瞳

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★この度は45号に花結びをご紹介頂きありがたうございました。大変興味深く拝見致しました。皆さんにも読んで頂けるようお渡しします。
東近江市 田中年子

★和たさんの記事にあった「和」が心に残りました。仏教でも「和顔愛語わげんあいご」というのがあり、事業内容とともに感銘を受けました。
大津市 河合弘之

★楽しく読ませて頂き、滋賀の良さを改めて感じました。とりわけ、和たさんは私の若き日の勤務地、やわらかいうめろの味を思い出し、現状を解らせて頂きました。ムラサキ栽培地は私が長年住んだ故郷で大変懐かしいとともに、孫年齢の前川さん、ご苦労様です。一人で見たいですが身体を大切に伝えてください。
大津市 村田和子

★社会の未来のために尊いお仕事を、理念だけを言われるのではなく実践して頂いていることに対して、子どもいる一人の親としても本当に感謝申し上げます。
栗東市 澤良明

★このところ大自然の驚異を身にしみて感じる事が続きます。自然に対しての向き合い方をM・O・H通信から学ぶよう心掛けます。そんなふうに見えるご皆さんの活動はすごいですね！
草津市 高屋佳典

★一年前にこの雑誌に巡り合えたことで滋賀県がより身近なものになりました。私はこの雑誌に大きく影響を受けましたので、今年の四日市大学の学園祭で「持続可能な地域社会づくりを考える」シンポジウムを企画しました。
四日市市 寺本 佐利

★講演で、持続可能な滋賀の実現に向け、人を大切にして、目先の損得よりも社会全体の利益を考える新江州の取り組みやM・O・H活動のネットワークの広がり、大きな感動と刺激を受けました。
愛荘町教育委員会 藤野智誠

★M・O・H通信楽しく読ませてもらっています。
山口市 柴田彦憲

M・O・Hせりふ

- ♪季刊誌の 届けしめじみ 秋とする
西宮市 小西寛信
- ♪もったいない ほどほどにと 環境に！
野洲市 水島 左知子
- ♪もったいない 今ある命 あるかぎり
長浜市 中野彰夫
- ♪おかげさま 年金もらって ボランティア
長浜市 田辺 太美雄
- ♪おかげさま 孫とのくらし 力わく
匿名
- ♪いまいちど 必要かどうか 考えて！
匿名
- ♪ほどほどに 上見るくらしは 限りある
匿名

《次号予定》

2015年3月発行予定

■特集：「社会」未来へのラブコール

- M・O・Hな寺／「次代への伝言」松尾寺・近藤洋子
- インタビュー／「未来の滋賀」三日月大造 滋賀県知事
- 対談／「芸術と文化と経済」オプテックス(株) 小林徹取締役会長兼代表取締役社長
- 寄稿／「未来の社会像とは」内藤正明
- 寄稿／「スウェーデンの社会」花田真理子
- 寄稿／「三重県+滋賀県」美里けんじ
- 取材／醤油屋のリノベーション
- 連載／通常通り

※敬称略、予告なく変更いたします

編集光記

- 本年も皆様に多大なるご協力を頂きました。心から感謝いたします。皆様に愛されるM・O・H通信になれるように。皆様のご多幸を心から祈念いたします。漣藤寿さん、滋賀文学賞おめでとうございます。……こと
- ピザもふくさもカフェも、商品の向こう側にある経営者の想いを知ることで、もっと好きになりました。……ひとみ
- 先日、梨木香歩『冬虫夏草』を読みました。舞台は滋賀、鈴鹿を抜ける八風街道沿いの集落や山を小説と共にたどり、古き良き時代の日本のみずみずしい季節感にうっとり。京都山科が舞台の前作『家守綺譚』ともどもおすすめです。……あや

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。M・O・H通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.46(通巻47号) 2014年12月20日発行 発行部数6,500部

●編集・発行/新江州(株) 循環型社会システム研究所 M・O・H通信編集局

代表 森建司
編集長 つじむら ことみ
編集 上岡 瞳
取材 山崎 彩
北井 香
本田 明
デザイン 伊達デザイン室
写真 辻村写真事務所
宇留野 元徳
表紙 宇留野 元徳
印刷 プランセル
ホームページ プランセル

●創刊/2003年3月度

●執筆者懇談会

内藤 正明	木村 至宏
嘉田 由紀子	小林 隆彰
海東 英和	山口 美知子
今関 信子	岡部 達平
末永 國紀	豊田 一美
花田 眞理子	熊谷 英彦
弘中 史子	藤井 尚子
山崎 隆	玉垣 勝
三山 元暎	仁連 孝昭
加藤 みゆき	今森 光彦
清水 安治	川戸 良幸
森 孝之	鶴飼 修
堀越 昌子	プライアンワイアムズ
結城 美枝子	中川 善雄
井上 昌幸	古田 紀子
徳永 拓美	(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県	滋賀県立大学
琵琶湖環境科学研究所	近江環人 地域再生学座
もったいない学会	NPO法人環人ネット
循環共生社会S研究所	野洲生活学校
高島森林体験学校	EEネット
麻生里山センター	中小企業家同友会

(順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>



MOH図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。

パラパラマンガをお楽しみください

START

